

福島県双葉町出身の茨城大人文学部4年、小野田明さん(23)が、東京電力福島第1原発事故で全町避難を余儀なくされた同町のこの1年間を記録したドキュメンタリー映画「ある町」を製作した。町域の96%が帰還困難区域に指定された同町。

## 全町避難の1年間記録

後も撮影を続け、「町月4日に茨城大で開か  
が新たな一步を踏み出されたシンポジウムで初  
す過程を追いたい」とめて上映された。  
意気込んだ。

「帰る気はないが、このまま町がなくなるのは寂しい」と複雑な心境を明かした。

# 「故郷とは」映画で問う

## 福島・双葉出身小野田さん(茨城大4年)

「故郷とは何か」を考  
えるため始めた撮影で  
は、インタビューを通  
じて散り散りになった  
町民の姿を目の当たり  
にし、故郷への帰還を  
めぐるさまざまに思  
いが浮かび上がった。今



上映作品に答え、4日、茨城大で質問に答える小野田明さん(水戸市文京)

「故郷とは何か」を考  
え、小野田さんが止ま  
ったままの町内、小野  
田さんも原発事故後  
は、避難先を転々  
とす同町の現状を直  
視できず、故郷から  
然と足が遠のいた。

来月には同郷の若者  
たちの意見交換の場  
を立ち上げるつもり  
だ。「町の行く末が  
どうなるか分からない  
が、若者なりの意見  
を伝えたい」とい  
う。

転機は昨年夏、映像  
の勉強のため、留学  
していた英国で「フク  
シマ」をテーマとする  
映像製作に参加した  
こと。「自分にとって  
故郷とは何か」との  
思いが次第に大きくなり、  
留学を途中で切り上げ、  
帰還困難区域などに再  
編されて状況が変わっ  
た。「立ち入り制限の  
ゲートを見たのがショ  
ックで、自分の町でな  
くなった気がした」  
1年間の撮影を経て